建学の精神とキリスト教 - 501【第5回】

# 初期同志社を支えた人々

## ー 熊本バンド、アメリカン・ボード ー

同志社大学 神学部教授
良心学研究センター長
小原 克博



# Overview

1. 熊本バンド
2. アメリカン・ボード
3. 今回の課題



# 1

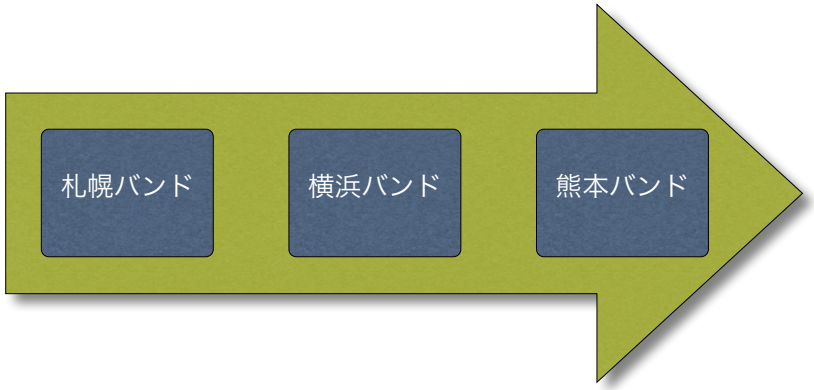
# 熊本バンド



# 設立直後の同志社

- 設立されたばかりの同志社英学校は、設備、生徒、制度、教員、カリキュラム、授業など、いずれをとっても未整備の状態であった。
- 「熊本バンド」入学により、内実を整えることになる。

# 日本プロテスタント三大源流






# 札幌バンド

- 札幌農学校（今の北海道大学）を舞台として、同校教頭W・S・クラークが卓越したメンバーを生み出す。
- 内村鑑三
  - 「無教会」派の指導者。
  - 門下から矢内原忠雄と南原繁（いずれも東大総長）が出る。
- 新渡戸稲造
  - アメリカ留学中にクエイカー（Quakers）に改宗。
  - 国際連盟事務局次長のときには、同志社の理事も務める。

# 横浜バンド

- アメリカ･オランダ改革派から派遣された宣教師、J・H・バラが1872年に創立した横浜公会（今の横浜海岸教会）に集った青年たちが「横浜バンド」と呼ばれるようになる。
- 植村正久
  - 長老派系教会の指導者



# 熊本バンド

- 「熊本洋学校」の出身者たち
  - 卒業後、組合教会（会衆派教会）の指導者になる。
- L・L・ジェーンズの感化を受け、キリスト教に傾倒する
  - 1876年、花岡山の山頂で「奉教趣意書」 に署名をする。
  - キリスト教信徒を生み出したということで、同年、熊本洋学校は廃校に。

熊本市郊外花岡山山頂に立つ熊本バンド奉教記念碑



# 熊本洋学校の歴史的背景

- 明治維新で薩長土肥に遅れをとった肥後が、教育面で先駆的であろうとして立ち上げた学校。
- 発案者は、横井小楠（しょうなん）の門弟たち（いわゆる「実学党」）。特に、彼の甥の大平（だいへい）。
- 大平の師、フルベッキの斡旋によりジェーンズが教師として招かれる。
- 横井小楠の死後、6年経って同志社英学校が設立される。彼の子ども（時雄と宮子）が入学。



# 熊本バンドの入学

- 熊本洋学校廃校後、ジェーンズは大阪に英語教員として赴任。
- 生徒・卒業生らは、ジェーンズの勧めで同志社に入学。
  - 長崎の宣教師スタウトから同志社のことを聞いたジェーンズが、デイヴィスに生徒の引き取りを依頼。
- 熊本からやって来た30数人の生徒たちを宣教師たちが「熊本バンド」と呼ぶようになる。
  - 宮川経輝（つねてる）、海老名弾正（後に第八代同志社総長）、下村孝太郎（第六代同志社総長）、小崎弘道（同志社第二代社長）
- 彼らのために同志社は急きょ「余科」（神学科）を新設。
  - 学生たちは、余科を「バイブル・クラス」と呼ぶ。同志社神学校の起源。

新島校長（右端）と熊本バンドを含む初期の同志社英学校生（1877年秋）

# 熊本バンドの功績

- 入学当初、熊本バンドの多くは同志社に失望する。
  - 彼らのジェーンズに転校の相談をする。
  - 「不満があるなら自分たちでまず改革せよ」。
- 熊本バンドの働きにより、同志社の校風は一変する。
- 熊本バンドは、京都における教会形成の主力を担うことにもなった。
- 同志社が雇用した最初の日本人教員も、熊本バンドから輩出された。
- 日本社会に対し、宗教、研究、教育、社会福祉、社会事業、マスコミといった領域で有為な人材を送り出す。



# ラーネッドによる評価

「ヨルダン川には三つの源流があるという事ですが、同志社にも三つの源流があるといってよろしい。すなわち、第一の源はもちろん新島先生ですが、第二の源はアメリカン・ボード、そして第三の源は熊本バンドであります。」



# 2

# アメリカン・ボード



# アメリカン・ボードの起こり

- 1810年、ミルズ（Samuel Mills、ウィリアムズ大学生）が会衆派教会協議会に、インディアンとインド人への伝道の必要性を訴える。
- 1810年、「アメリカン・ボード」（American Board of Commissioners for Foreign Missions）の設立。
- 宣教師の派遣先
  - セイロン（スリランカ）と国内のネイティブ・アメリカン（1816年）、サンドイッチ島（ハワイ、1820年）、トルコ（1826年）、中国（1830年）、タイ（1831年）、シンガポール（1834年）。

# 日本への宣教師派遣

- 1859年、日本におけるプロテスタント伝道の開始（長崎と横浜で）
  - アメリカ聖公会のリギンズとウイリアムズ、アメリカ長老教会のヘボン、そしてアメリカ・オランダ改革派のブラウン、シモンズ、フルベッキ。
- 1868年、明治維新。
- 1869年、アメリカン・ボードの進出
  - 超教派的組織から会衆派主体の組織へ



# 日本伝道

- 1869年、グリーン夫妻の派遣。
  - 「神戸ステーション」の成立。
- 1871年、ギューリック夫妻、デイヴィス夫妻の派遣。
- 1872年、ベリー夫妻、ゴードン夫妻の派遣。
  - 「大阪ステーション」の成立。
- 1873年、女性独身宣教師タルカット、ダッドレー、グールディーの派遣。
  - 1875年、神戸ホーム（今の神戸女学院）の設立。



# 新島とアメリカン・ボード

- 1874年、帰国。
- 1875年、大阪に赴任。ゴードン邸に滞在。
- ミッション・スクールとしての同志社
  - 新島は、ハーディーが理事長を務めるアメリカン・ボードから準宣教師に任命され、日本に派遣された。
  - ラットランドの集会（1874年）で新島が集めた5千ドルの募金もミッションの資金。



# 京都ステーション

- 同志社がなければ、宣教師が京都で働くことは不可能。
- アメリカン・ボード総主事のクラーク（N. G. Clark）と新島は親密な関係にあり、クラークは日本伝道に大きな理解を示した。
- 日本は、1880年代のアメリカン・ボードの海外伝道の主要舞台となる。

# 伝道か教育か

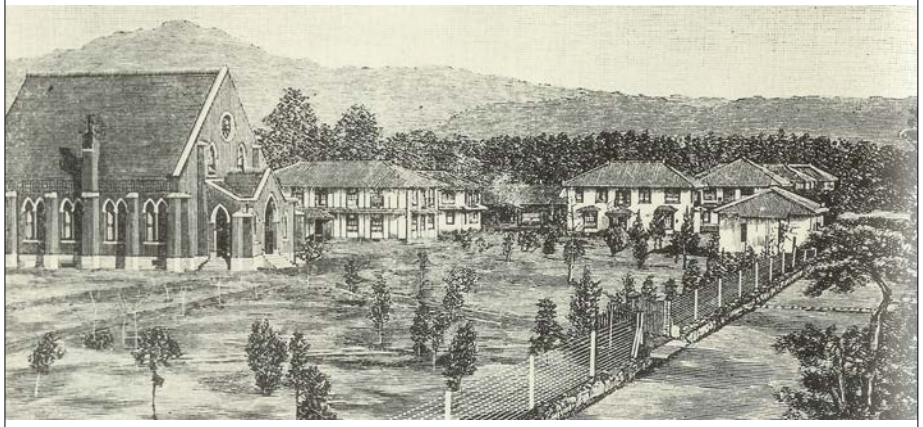
- アメリカン・ボードは元来、伝道第一主義であった。
- しかし、クラークが総主事の時代に、アメリカン・ボード内部で教育重視路線が定着する。
  - 同志社はボストンから多額の援助資金を受け取る。
- 新島は、宗教者以外にも政治家、官吏、医者、教員、実業家などキリスト教的な精神を抱いて自己犠牲的に働く人材を日本社会に送りこみたいと願って、大学設立を目指した。



# アメリカン・ボードの貢献

- 5つの重要文化財は、すべてアメリカン・ボード関係の寄付が建築資金になっている。
  - 「クラーク記念館」（旧神学館。クラークB.W.Clarkeはアメリカン・ボード総主事のクラークN.G.Clarkや、札幌農学校のクラークW.S.Clarkとは別人）、「彰栄館」、「同志社チャペル」、「ハリス理化学館」、「有終館」。
- 1961年、「米国合同教会世界宣教委員会」（United Church Board for World Ministries, UWC）へと発展的解消。





同志社礼拝堂が竣工した（1885年6月）頃のキャンパス



# 四人の宣教師たち

- デイヴィス：「影の校長」の役割を果たす。
  - デイヴィス記念講堂。「わが人生がわが遺言」（My life is my message.）
- ラーネッド：デイヴィスが「情の人」なら、ラーネッドは「知の人」
  - ラーネッド記念図書館 。「生きるために学べ、学ぶために生きよ」（Learn to live, live to learn.）
  - 1885年、山本覚馬に洗礼を授ける。同志社大学 初代学長。
- グリーン：彰栄館、チャペル、有終館を設計・施工した。
- デントン：同志社女子部（同志社女子中・高・女子大学）の母。

# 新島死後の変容

- 時代風潮が国粋主義的になる。
  - 新島の後を継いだ小崎弘道（第二代目社長）と横井時雄（第三代目社長）は国家主義や日本人の独立心を強調する余り、外国からの資金援助に否定的な姿勢をとる。
- 「新神学」（批判的・自由主義的神学）への傾倒が宣教師たちとの摩擦を生む。
- 1896年、同志社はアメリカン・ボードと断交し、独立する。



# 3 今回の課題（600〜800字）

- 今回の講義の中で、あなたの印象に残った（重要であると思った）点（複数可）を、その理由と共に述べてください
- 『新島襄365』【6月1日】〜【6月30日】を読み、もっとも関心をひかれた日付を《二つ》あげ、それぞれ、その理由を述べてください。